

三章

創造

宇宙の創造

〔三七〕 宇宙は創造されたものですか、それとも神のように初めから存在していたのですか。

「確かなことは、宇宙は自成した筈はないということ。では初めから在ったのかという、それでは神の作品とは言えなくなってしまう」

〔注解〕 吾々の理性によると、宇宙がみずから創ったとは考えられない。また偶然に出来たとも考えられないから、結局、神の創造と言わざるをえなくなる。

〔三八〕 神はどのようにして宇宙を創造されたのですか。

「普通の言い方をすれば、神の意志によって、ということである。へ神が光あれ、と言ひ給うと光があつた、これは旧約聖書の創世記の有名な言葉だが、これ以上に、神の全能の意志による行為を表す観念は他にはないであろう」

〔三九〕 宇宙はどのようにして成つたか、私共はこれを知ることが出来ましようか。
「諸君に理解できる範囲内で説明すると、こうだ、各天体は、宇宙空間にひろがつて

いる物質が凝縮して形成されたものである」

〔四〇〕 現在想像されているように、彗星は根源的物質の凝縮の初め、すなわち生成過程の天体、こう考えてよろしいか。

「そのとおりである。しかし、それから発する影響を信じるのは愚である。ここで影響とはそれから生まれた影響という意味である。というのは、天体はすべて何らかの物理現象の生成から影響を受けるものだからである」

〔四一〕 一度形成された天体が消滅することがありますか。また、天体を形成している物質が、再び空間にまき散らされることがありますか。

「それはある。神は生物を更新されるように、天体も作りかえられる」

〔四二〕 地球などの天体を創造するのに、どれくらいの年代がかかったのですか。

「これについては何も答えられない。神のみが知り給うことだから。中には、いかにもそれを知っているかのように、また年代を得々と述べる者がいるが、まことに愚かなる者である」

生命の創造

〔四三〕 地上に生命が発生したのはいつ頃ですか。

「初めは混沌とした状況であった。混沌の中で、要素が混合された。漸次、これら要素がその処を得、その後、次々と変わる地球の状況に応じて、生物の各段階が現れた」

〔四四〕 これら生物は何処から来たのですか。

「これら生物の種子は地球そのものの中にあつて、適当な出現の時を待っていた。有機質はある力によって初めばらばらになつていたが、その力の停止とともに集合し、地上生命の種子たねを形成した。これらの種子はさなぎや植物の種子のように、内部にひそんで時節の到来を待っていた。次いで、各種の生命が現れ、増加した」

〔四五〕 地球生成以前に、有機質は何処にあつたのですか。

「それは、いわば液状をなして、空間に、霊達の中に、あるいは他の遊星に在つて、

新しい天体での新生を求めて、地球の生成を待っていた」

〔四六〕 今日でも、自分からすすんで、新生してくる生きものがあるのですか。

「それはある。但し、それらの種子たねは既に潜在的に存在していたわけである。諸君等もそういう現象を常に見るのではないか。人体や動物の組織も多数の寄生生物を宿している。これらは発生に必要な腐敗発酵が起こるのを待っている。人間は創造過程にある微生物世界を蔵しているわけである」

〔四七〕 人類も、かつて地球に内蔵されていたのですか。

「そのとおりである。創造主の意図された時に人類は発生した。故に、バイブルには〈人間は土くれより創られた〉と書いてある」

〔四八〕 私共は、人間や地上生物の出現の年代を確かめることが出来ますか。

「出来ない。考察してみても、それはすべて空想である」

〔四九〕 もし、人類の種子たねが有機的要素の中に在るものなら、今日においてもなお、かの発生時と同じように、人類の創造は行われないのですか。

「ものの初めのことは吾々には分からないが、次のことが断定できる。人間の始祖達は出現の時に、必要な要素を吸収した。これにより、再生生殖の法則に従って子孫にこれが伝えられることになった。他の生物の場合も同様と考えられる」

始祖アダム

〔五〇〕 人間の始祖は一人ですか。

「いや違う。アダムは人間の始祖ではない、また地上に人間を増やした唯一の人ではない」

〔五一〕 アダムはいつ頃の人か分かりますか。

〔西暦紀元前約四〇〇〇年〕

〔注解〕 伝説で有名なアダムとは、過去にしばしば起こった地殻大変動を生きのびて、現在種族の建設者となった者の中の一人であった。人類発生以来の進歩が、近々六〇〇〇年前のアダムの時から行われたとすれば、人類の進歩はものすごいものに

なるわけだから、これは正しくない。だから、アダム始祖物語は、神話か寓話の類と考えられる。

人種の相違

〔五二〕 人種によつて、身体的・精神的な相違があるのは何故ですか。

「それは気候風土、生活様式や社会習慣の相違による。同じ親から生まれた二人の子供の場合も、離れて育つて生活環境が違つたと、同様な相違がおこる。これは精神的に全く違つてくるからだ」

〔五三〕 人種はそれぞれ別の地域に出現したのですか。

「そうだ。しかもそれぞれ時代を違えて出現した。これが人種による相違の一原因である。原始時代の人間は、いろいろな気候風土にひろく分布していたので、自国民より他国民と結び付いた結果、人間性の新しい型をつくる源となつた」

——これが新種の原因ですか。

「いや、そうではない。それは単に一種族をつくるにすぎない。同じ果実でも、いろいろな相違が出てくれば、同一種だとは申せなくなる」

〔五四〕 人種が同一祖先から出ていないものとするれば、兄弟とは言えませぬね。

「人類はすべて神に対して同じ関係にあるから、兄弟である。人類は同じ霊から生命を受け、帰る処も同じ処であるから」

世界の多様性

〔五五〕 天体にはすべて生物がいるのですか。

「いる。諸君等は、地上の人類はその知性、道義性、進歩の点から第一等と思い込んでいるが、とんでもない。また、無数にある天体の中で、地球にだけ人類が住んでいると思っっているようだが、これも勝手な考えである。諸君等は、神が宇宙を人間中心に創ったように思っているが、誤謬も甚だしい」

〔五六〕 各天体の物理的構造は皆同じですか。

「そうではない、皆違っている」

〔五七〕 そうだとすれば、そこに住む生物の構造も違っているのですか。

「左様。丁度、魚が水に住み、鳥が空に住むために、構造が違っているのと同じことである」

〔五八〕 太陽からずっと離れた遊星、太陽がまるで一粒の星のようにしか見えない遊星では、光も熱もずっと少ないのではないのでしょうか。

「諸君は、太陽以外に光と熱はないと思っているのかな。諸君等は電気の働きを考えてはみないのか。それは、地上でよりずっと大きな働きをしているのだ。また、それら遊星の住人達も、諸君等と同様に、五官の働きをもって、ものを見る、この事実がお分かりかな」

旧約聖書の天地創造の説話

〔五九〕 天地創造については、各民族各様の考え方をもっている。しかしそれは、各民

族の科学的な発達に応じたものなのである。人類の始祖アダムも、宗教的信仰で歪められ、一人だと思われていたが、そうではない。それは地動説が、聖書の信仰と違うことから迫害されていたのと同じことだ。

旧約聖書では、天地は六日間で創造され、それはキリスト生誕前四〇〇〇年のことであると教える。それまでは天地もなく、天地はその時無から創造されたというわけである。今日では科学がこれをはっきり否定している。地殻の中に地球生成の歴史ははっきりと書かれているからである。

天地が六日間で創造されたというのは、多くの時代を幾つも重ねたということである。ただこれをそのまま認めると、逆にバイブルに記してある事實は、すべて比喩であるとする間違いを犯す。つまり、聖書は結局信じるに足りないものとなる。そうではなくて、これを解釈する人間の方が間違っているのである。